

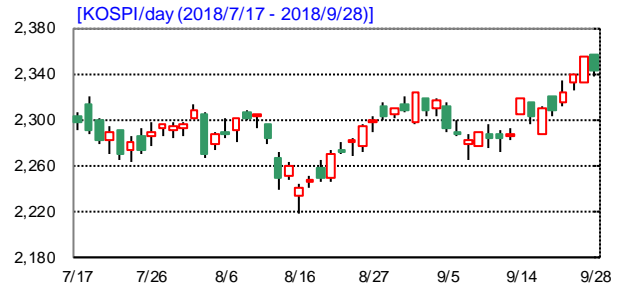


【韓国】 総合指数は週間で0.2%高と3週続伸、資金流出懸念の後退を好感

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.2%高と3週続伸。24-26日は祝日のため休場で、27-28日の2日間のみ取引だった。連休明け27日は3営業日続伸。米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果発表により米長期金利が低下し、資金流出懸念が後退したことが好感された。28日は4営業日ぶり反落。サムスン電子やSKハイニックスなど時価総額の大きい銘柄を中心に利益確定売りの勢が強まり、相場を押し下げた。個別では半導体銘柄のサムスン電子が前週比2.0%安、SKハイニックスが同4.7%安、医薬品のセルトリオンが1.8%安と軟調だった。今週は3日が開天節（建国記念日）のため休場。2日に発表予定の鉱工業生産の伸び率は市場予想が0.3%で、前回の0.4%を下回るとの見方が優勢。5日にはCPI上昇率が発表される予定。

▼指数チャート

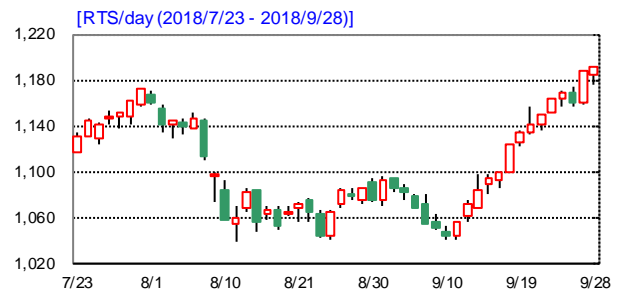


【ロシア】 RTS 指数は3.7%高と3週続伸、今週も原油や通貨の動向が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は3.7%高と大幅に3週続伸。原油相場や通貨ルーブルの上昇、米国の対ロ追加制裁延期の方針が好感された。指数は週明けから原油やルーブルの上昇を好感し堅調に推移。ブレント原油は約4年ぶりの高値となり、資源・エネルギー株買いを促した。週半ばには原油相場の上昇一服やFOMCの結果公表を控え、上昇幅を縮小したが、週後半は米国がロシアへの追加制裁を延期する方針を明らかにしたことで再び資金が流入。28日には終値ベースで約2カ月半ぶりの高値をつけた。指数採用銘柄は、ロスネフチが2桁高となったほか、ルクオイル、ノヴァテクのエネルギー株が軒並み高。金融のズベルバンク・オブ・ロシアも5.1%高となり指数を押し上げた。今週は原油やルーブルの動向が引き続き焦点か。

▼指数チャート

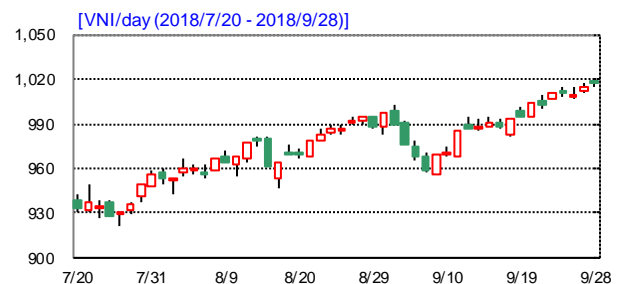


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.4%高と3週続伸、今週はリスクオンが継続か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は1.4%高と3週続伸。米中貿易戦争の長期化懸念が強まったが、不動産株や金融株が買われ、指数は3カ月半ぶりの高値水準を回復した。週明け24日は不動産株や公益株が上昇し、指数は前週に続いて戻り高値を更新した。その後は中国が米国との通商協議を中止したことで貿易戦争の長期化懸念が高まり、25-26日と小幅に続落。ただ、週後半はFOMCで緩やかな利上げ見通しが維持されたことで安心感が広がった。指数は27-28日と続伸し、3カ月半ぶりの高値水準を回復した。個別では不動産のノー・バー・ランド・インベストメント、ビンコムリテールが2桁高、ビンホームズが4.4%高となったほか、金融のテックコムバンクが3.0%高。今週は緩やかな米利上げ見通しを背景にリスクオンが継続か。

▼指数チャート

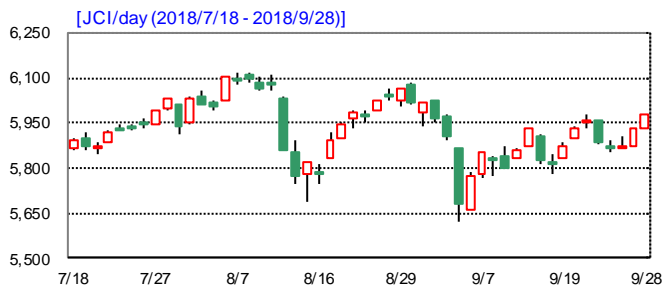


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3%高、中央銀行が今年 5 回目の利上げを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 0.3%高と 3 週続伸。9 月月間では 0.7%安。先週は後半の上昇が奏功した。週初の 24 日は、米国による第 3 弾の対中制裁関税と中国の報復措置の発動が嫌気され、指数は終値で前営業日比 1.3%安と 4 日ぶりに反落。その後も買い材料に乏しく 26 日まで 3 日続落したが、27 日は中央銀行が通貨防衛策として今年 5 回目の利上げを決定したことが好感され、前日から 1.0%上昇すると、28 日も続伸した。今週は 1 日発表の 9 月の CPI に対する市場の反応が焦点。23 日には来年 4 月に実施される大統領選に向けた選挙戦が正式に始まっており、今後は株式相場でも動向が注目されそうだ。

▼指数チャート

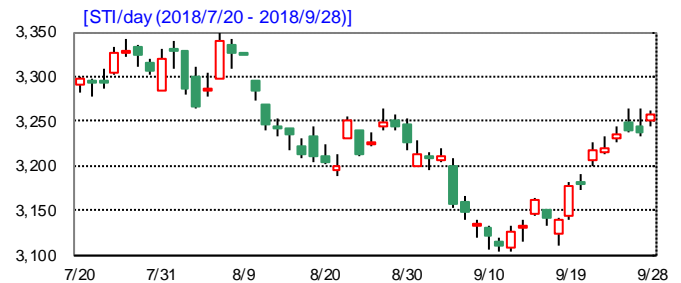


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.2%高、今週は 9 月の製造業 PMI に注目

スレーツタイムズ指数は週間で 1.2%高と 3 週続伸。9 月月間では 1.4%高。先週はおおむね堅調に推移した。24 日は前週半ばからの流れを引き継ぎ 4 営業日続伸してスタート。26 日は 8 月の鉱工業生産が前年同月比 3.3%増と市場予想から下振れしたことが嫌気され、指数の上昇幅を縮めた。その後、27 日は 7 営業日ぶりに小幅反落したが、28 日は金融株と不動産株を中心に買い戻しが入り反発して引けた。今週は 2 日に 9 月の製造業 PMI が発表される予定で、前月の 52.6 ポイントを上回れば好材料。外部要因では、30 日に発表された中国の公式製造業 PMI と財新製造業 PMI に対する市場の反応が注目される。

▼指数チャート

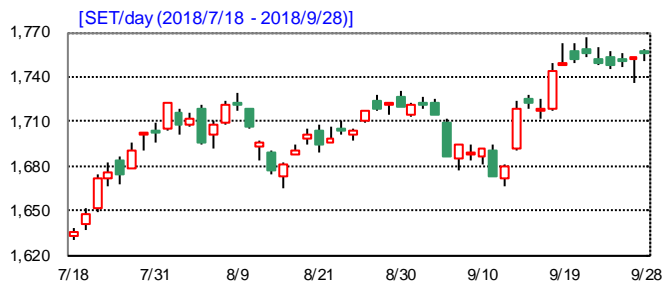


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.02%高、今週は 9 月の消費者信頼感指数に期待

SET 指数は週間で 0.02%高とほぼ横ばい。9 月月間では 2.0%高。先週は半ばからの上昇が指数を支えた。週初の 24 日に 5 営業日ぶりに反落すると、25 日は 8 月の鉱工業生産が前年同月比 0.7%増と市場予想から下振れたことが嫌気され続落。一方、26 日に前日のブレント原油先物価格が一時、約 4 年ぶりの高値を更新した効果でエネルギー株が買われて反発すると、その後は週末まで小幅なレンジで 3 日続伸した。今週は 1 日の 9 月の CPI に続き、4 日には同月の消費者信頼感指数が発表される予定。消費者信頼感指数は 13 年 4 月以来の最高値を更新した前月の 83.2 ポイントを上回れば株式相場の支援材料になる。

▼指数チャート

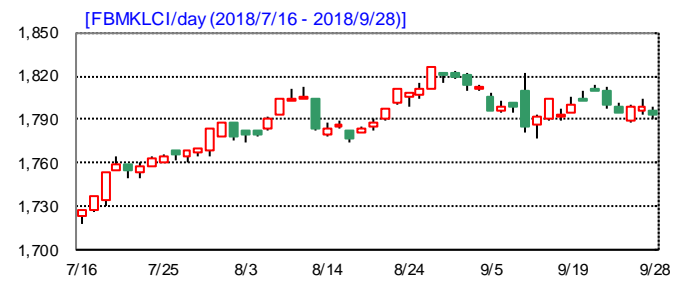


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.0%安、今週は 5 日に 8 月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は週間で 1.0%安と 3 週ぶりに反落。9 月月間では 1.5%安。先週は軟調な値動きが続いた。週初の 24 日は、米中が相互に追加関税を発動したことが嫌気され、4 営業日ぶりに反落すると、25 日は終値ベースで節目の 1800 ポイントを割り込んだ。26 日は中国株の上昇に連動して 3 日ぶりに反発したが、27 日は前日に FOMC が今年 3 回目の利上げを決定した上、12 月の FOMC でも追加利上げが実施されるとの見方が優勢となり、新興国からの資金流出懸念が広がった影響で小幅に反落。28 日も買い材料に乏しく続落して取引を終えた。今週は 5 日に発表される予定の 8 月の貿易統計が焦点。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。